足りない恋愛

こけもも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
足りない恋愛

【Ｎコード】
Ｎ４００４ＢＡ

【作者名】
こけもも

【あらすじ】
大学院生のナツメと同棲している香子。
真面目で誠実、ヒーロー顔をしたナツメのことは好きだし、自分には勿体ない人だとも思う。でも、この関係は恵まれているのに退屈で、理想の恋愛とは少し違うみたい。
そんなとき、お調子者のクズ男に出会い、好きになりたくないのにどうにも離れ難い気持ちになる。ナツメと別れる決心でクズ男と会ううちに、
ナツメに無理矢理クズ男との間を引き裂かれるがーー。

香子は、恋愛にかけひきや打算を持ち込むのが大嫌いだった。
純粋な気持ちと、相互理解、思いやり、尊重、話し合いが大事だと思っていた。

ナツメもきっと同じ気持ちなんだと思っていた。

ナツメは、時間を見つけては部屋にやってきて香子と一緒にいたがった。
何でも話し、笑い合い、喧嘩しては、また仲直りをした。
身体の関係は、香子がいやがったが、ナツメは怒らなかった。

やがて香子は大学を卒業し契約社員として働き出した。
ナツメは大学院生として官僚を目指しながら勉強する日々。
半同棲生活になった。

香子には結婚願望はなかった。打算もかけひきもない恋愛で、ただ一緒にいるだけでよかったのだ。

ナツメはよく香子に自己ＰＲをした。自分の家にどれくらい資産があり、
自分がこれまでいかに輝かしい人生を送って来たかを話し、
研究室ではどんなに先生から信頼されているかを話した。
香子は、ナツメを好きだったから、誇らしく思っていた。
自分たちはこれでいいのだと信じ切っていた。

香子は、お洒落するような派手なデートも興味がなく、プレゼント

にもまったく興味がなかった。
ナツメは多少デートに連れて行きたがったが「君はお金がかからなくていいね」と呆れた。

香子としては、「金金うるさいバカな女どもと違って、
ナツメと議論をしている時間を持てる自分が好き」だったし、知的虚栄心が満たされて嬉しかったのだ。
外見は地味だったが、ナツメは可愛い可愛いと言ってくれた。
ナツメの外見は、香子が「バカな女ども」と思うような女がかっこいいと褒めるような美形な顔、漫画のヒーローみたいな黒目の大きい凛々しい顔だったが、背が低かった。香子にとって男の身長は何ら欠点ではなかったが、そのことでエッチの体位がうまく決まらないのだけは不満だった。香子はエッチ自体が嫌いになってよくナツメとのエッチを断った。

ある日、香子が歌舞伎町を歩いていると、
長身で整った顔の男に声をかけられた。
街のごろつきみたいでクズっぽい。
「おっじょうさーん♪　ちょっと道、聞きたいんだけど」
礼儀正しくきちんとしているナツメとはまったく違う、実に軽い男だった。
香子が無視して通りすぎようとすると、
「道がわからなくて困ってるんです」
と急にクズが礼儀正しくなった。
香子は『本当にこまってるなら、道を教えてあげないと気の毒』だと余計な善意で立ち止まってしまった。
「実は僕、専門学校の講師で、これから新しい学校で授業を持つことになったんだ。〇〇ビルってどこにあるのかわからなくて。知ってる？」
それは西口のでっかいビルだった。

「それなら駅の反対側ですよ」
「一緒にいってもらっていい？」
まあ、専門学校の講師ならそんなに危ないこともないだろう、と香子は一緒にビルまで行くことにした。

ビルにつくと、ＩＴ専門学校の宣伝のポスターが貼ってあった。
「ありがとう。助かったよ。ちなみに、これ、僕」
と男はポスターを指差した。
　ポスターには有名講師の文字とともに、男の写真が載っていた。
「ほんとだ」
香子はびっくりした。
「ねえ、連絡先、交換できない？　お礼においしいお酒でもごちそうしたいんだ」
香子はうまれてはじめてナンパされて、それがナンパだと気付かなかった。本当にお礼なのだと思ったのだ。
「お礼なんて要らないです」
「でも、メールくらいいいでしょ？パソコンのことなら何でも教えてあげられるし」
「ええ。それなら。パソコンのことで先生に聞きたいことあるし。」
香子は、パソコンの調子が悪いことを思い出して、男とメール交換してしまった。

香子はいつも通り、長々と理屈っぽいメールをクズ男に送った。
ナツメならひとつずつ丁寧に返信してくれる。
でも、クズは違っていて、「かわいい香子ちゃん。ご飯食べた？」と返信してきた。
香子は怒った。「真面目に答えなさいよ」と返信すると、
クズは「直接会った方が早くない？」と返信してきた。
怒りにまかせてクズの指定したレストランに行く香子。

そこは堅実なナツメなら選びそうにない、
雑誌に載っていそうなこじゃれた店だった。
食事しているうちに、クズにすすめられるまま酒を飲む香子。
クズはいきなり香子の頭を優しくさわった。
「かわいいねえ」
香子は、そんな風に優しく触られたのが初めてだった。
ナツメはいつも紳士的で、ベタベタ触って来たりなんかしない。
2人きりのときに、そっと触れて来るくらいだ。
女性の扱いがよくわからず、香子の望むようにできるだけ叶えようと、
誠実に構えているのがナツメだった。
でも目の前のクズは、強引に香子を抱き寄せた。
「どうしたの？　もしかして感じてるの？」
香子は、慣れたリードに理性がきかなくなっていた。
女性にもおさえられない性欲があるのか、それとも自分が愚かで性欲が強すぎるだけなのか、香子にはわからなかった。

クズはセックスがうまく、何度でも香子をいかせた。
「こんなのいや。彼がいるのに、こんなことしてしまった。どうしよう」
香子は泣いたが、クズは、
「そんなこといってもまだ身体が熱いけど」
と触り続け、香子の理性をまた押し流した。
「わたし、クズのこと好きになってしまった」
泣く香子。
「クズはわたしのこと好きなの？」
と聞くと、
「うーん」とクズは言った。
「好きじゃないのにこんなことするなんてひどい」
「気持ちよかったでしょ？　欲求不満だったんでしょ？　彼じゃ物

足りなかったんでしょ？」
クズは言い返せない屈辱的な言葉ばかり並べた。
香子は、クズに感じたことのない怒りを覚えた。
「ひどい。許せない」
理性を保てなかったのは自分なのに、好きでもないのに抱いたクズが許せなくなって来た。
でもクズが好きになっていたし、会えなくなるのはいやだった。

それからもクズは香子からのメールに返信し、
香子が会いたいと言えば会ってセックスした。
会っているとき、ナツメから香子の携帯になんども着信があった。
もう隠し通せない。
香子はナツメとの別れを決心した。

自宅に戻ると、ナツメが怒った顔で待っていた。
「ナツメくん、わたし、好きな人ができて、もうあなたとは別れる」
ナツメは許さなかった。
どんな男か聞き、相手が好きだとも言っていないのを知ると、
「頼むからそのクズとは別れろ。君のために言ってるんだよ。
俺がどれだけお前を好きかわかっんのか？」
とナツメは泣きじゃくった。
「もう二度と会うな。引っ越して一緒に住もう。結婚しよう」

ナツメは香子と一緒に住み始めた。
香子は、その後、クズとは別れた。理性で抑えきれないほど惹かれていたのになぜ別れられたかと言うとーー
ある日、クズの家を訪ねて行くと女がいた。
女にあっさり「あんな男あげる。どうぞ」と言われた。
クズはあわてて女の家に謝りにいったが許してもらえなかったそうだ。

「実は専門学校が生徒集まらなくて、廃校になった」
クズは女のヒモで、講師としてうまくいっていた頃にカードを使い過ぎて５００万円もの借金を抱えていたので、女に捨てられると家賃も払えない状態だった。
香子が「一緒に頑張ればなんとかなる」と言うと、
クズに「好きだ」と告白された。だが、クズは結局、借金の請求が来たらしき親が迎えに来て、実家に帰って行った。
もしかしたら、どうせ帰る前だから、しつこくしてくる香子に告白して美しい思い出にすればすっきり別れられるだろうとでも思ったのかもしれないが、香子にはかけひきなどわからなかった。

ナツメは、香子に
「俺のために料理を作ってくれ」と言ったが、
香子はプロポーズだと気付かず「料理苦手」だと答えた。
ナツメは香子に別れを告げた。

香子はなぜ別れを告げられたのかわからず、
一人寂しく、ナツメと住んでいたマンションを後にした。

（後書き）

ナツメくんと出会ったのは早すぎた。
いい恋愛以外はゴミだとつくづく思う。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4004ba/

足りない恋愛

2012年1月10日16時55分発行